

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西屋)

事業所番号	O670101971		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム馬見ヶ崎		
所在地	山形市桜町1丁目17-23		
自己評価作成日	令和3年 1月 28日	開設年月日	平成 17年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の想いを優先し、個々のペースに合わせて生活していきます。それぞれの強みを引き出し、一日の中でお一人お一人が輝ける場面を作ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 2月 19日	評価結果決定日	令和 3年 3月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修時に理念を基にした考え方を時間をかけて説明する。毎日の支援方法で迷った時は理念に沿って考えてみることをくせ付けし、自分たちの道しるべとして理念が常に目に入るように事務所に掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入、回覧板を届けている。地区の行事にも毎年参加しているが、今年は全て中止となり地域の方と顔を合わせる機会がほとんどなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩へ出かけ、挨拶を交わし、認知症になっても何ら自分たちと変わらないことを知ってもらえるよう活動している。また畑へ出て作物の育て方を教わったり職員とのやり取りを見ていただく場面を作り地域の方の目に留まるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、5つの町内会から代表者3~4名、ご家族、入居者に参加依頼していたが、コロナウイルス感染予防の為、今年度は開催していない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、介護派遣相談員の方を受け入れていたが、コロナウイルス感染予防の為、今年度は受け入れていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	毎月身体拘束についてケアの見直しを行い、職員同士で話し合う機会を設けている。定期的に行うことによって、これでいいのか？と疑問に思っていたことをざっくばらんに話し合える場となり、入居者の安全と尊厳を守る対応を、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会があれば参加し、学んだことを周知しているが、今年度はコロナウイルス感染予防の為、全ての研修会への参加はできなかった。職場内研修として、毎月の拘束・虐待予防MTで例を挙げて議論している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不明な点は、市の担当者へ相談したり、インターネットで調べ、制度の理解に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には可能な限り本人にも同席していただき、ホームでの生活を理解いただく時間を十分にとって説明をしている。事前の見学でも雰囲気を見ていただいたり、一緒にお茶のみをして緊張がとけるよう配慮している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えがあればすぐにその場で傾聴するようにし、思いを受け止めている。改善出来る事があれば直ちに改善したり、皆を交えて寄合を開き、解決に結びつけている。ご家族には面会のたびに近況を伝えたりコミュニケーションをとり話しやすい雰囲気作りに努めている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のMTで意見を聞いたり、試みを記入する用紙で、皆に相談できるような書類を活用し、改善へ結びつける努力をしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自分で目標を立てケアを振り返る機会を作り、管理者と話し合いを行っている。仕事のつまづき、悩みにも早めに気づけるよう日頃から声をかけ合っている。一日の流れを職員同士で話し合いスムーズな連携がとれる様に勤務状況はこまめに確認し勤務時間内で終わるように配慮している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内研修を行い、発表の場、話し合いの場を設けている。外部の研修なども事務所に貼りだし、興味のある研修の参加を促しているが今年度はコロナウイルス感染防止の為、外部の参加は推奨せず。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルスの影響で外部の方と交流することはできないが、スタッフ同士、情報を交換したり学習する場を設け、サービスの質の向上に励んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様との関わりを大切にし、要望があった際はすぐ改善できるよう努めている。日頃から信頼していただけるように会話をする時は手を止めて接し、話しやすい雰囲気を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にこれまでの生活環境や経緯を聞き取り、アセスメントを行っている。ご家族が思い描いてる要望と、ご本人の望む生活を受け止め、ホームでの生活に不安が残らないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを行った際、本人や家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見を聞き、自己決定できるような言葉がけを行い、本人の本意を引き出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とお会いした際はホームでの生活の様子や出来事、今、取り組んでいることをお伝えしている。ご家族の思いを聞き、支援に生かしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ通ったり、ご友人の話題を出したり、会う機会を作れるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お部屋でお茶のみをしたり、気の合いそうな方は職員が間を取り持ち一緒に散歩へ出たり調理や掃除など分担作業をしてもらいながら、入居者同士協力し、それぞれが活躍できる場を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方を連れて面会に行ったり、退居して不安を抱え、本人やご家族が電話をくれた時は真摯に受け止め、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅でどんな生活を送ってきたのか、何を大切に何を楽しみにして暮らしてきたのかを把握し、ホームでもその暮らしが継続できるよう支援している。(信仰、晩酌、書道、趣味、交友関係等)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使っていた家具や思い出の品を持ってきてもらい、自宅の様子に近づける事で、安心してゆったり過ごす環境を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を見たり、申し送りの内容から、どんな生活を送りたいか相談し、心身状態を把握すると共に、その人の気持ちに寄り添った支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、MTを行い、ケアプランにそった支援ができていないか報告を行っている。毎月、課題、解決法を話し合い解決に向けてアイデアを出しあっている。ケアプランも本人・家族の希望を組み込み作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤したら、個別記録に目を通し、職員間での申し送りを行っている。大切なことは個別記録に残し、情報を共有している。日常的なことが毎日同じことの繰り返しにならぬよう、工夫しながら実りのある日々を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の為、買物や外出に行けない一年だったが、散歩や草むしりなどで外に出る機会を設けたり、ホーム内で楽しめる事(夏祭りや芋煮会等)を企画し、今出来る事を柔軟に考え、実行することができている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかってきた町医者に継続して通っている。受診を家族の方へお願いしている場合もあるが、その際は主治医へ日常の様子を報告する手紙を渡している。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスの看護師が毎日来てくれるため健康状態を報告、アドバイスももらっている。かかりつけ医の受診結果なども伝え、情報の共有を図っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子、ADLの状態を記入した状況報告書を作成。服薬状況や既往歴など必要な情報を提供。入院した時には不安な思いが少しでも払えるよう、仲の良い入居者とお見舞いへ行く。看護師や相談員にも話を伺い、日常生活へ早めに復帰できるよう相談している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針を説明し、家族の理解を得ている。職員同士で今後の対応について話し合い、意向を定め家族との話し合いに臨んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修でマニュアルの読み合わせを行ったり、一年間の職員による緊急時の勉強会や対応の訓練を行っている。今年はコロナウイルス感染防止の為、外部からの講師をお呼びすることができなかったが、年2回、毎年赤十字から講師をお招きし、実際に心肺蘇生訓練を行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年間の訓練スケジュールをたて、火災訓練、水害訓練を行っている。水害訓練時には実際に入居者も2階の建物に階段であがり、個々のADLがどのくらいかを見極める機会となっている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生きてきた歴史を重んじ、敬意を持って言葉や態度に気を付けている。居室やお部屋へ入る際も、プライバシーに配慮して、ノックしてから入るようにしている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、求めている事にすぐ対応できるように、職員同士も協力体制ができています。散歩が好きな方が「外に行きたい」と言ったらすぐ行動できるようにしています。入居者の想いを大切にし、どんな時も出来る限り希望を叶えることで自己決定を促し信頼関係の構築に繋げている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話から希望を拾い上げ、自由に発言していただき自分を表現できるように支援している。活動や散歩、外出に積極的に連れ出し、決まった時間の流れで1日を過ごすのではなく、その日その時の気分を大切にしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴を参考に、普段からお化粧をされる方は、一緒に化粧品を選んでメイク道具を揃えお化粧を習慣にさせていただいたり、女性の方は洗顔後のスキンケアができるよう支援している。ひげや爪などもさりげなく確認し手入れをお手伝いしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は一緒に旬の素材を使うメニューを考えている。季節ごとの行事食を教えながら文化を継承する気持ちで一緒に台所に立っている。入居者の方が、切る、煮る、炒める、味付け、盛り付け、とすべての工程を主になっておこなっていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を使い、タンパク質が多く摂れるよう、肉、魚を毎食取り入れ全体のバランスを考えた食事が摂れている。食べたい物を聞きだし、料理本を見ていただいて想像ができるようにしている。水分量が足りない方は食事前に水分摂取を促し習慣化するように働きかけている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで自分で出来る方、準備まで必要な方、介助が必要な方を職員同士で把握し毎食後、声掛けや確認をしながら口腔ケアを行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを入居時に行い、声かけが必要か、もよおした際に何かしづさがヒントになるか、を見極めている。排泄ケアに関しても今の状況に合っているかをMTやカンファレンス時に検証している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の刺激となるように日常の中でのなるべく身体を動かす機会を作り軽体操を行っている。水分をこまめに提供したり、便秘に良いとされる食べ物(ヨーグルト、ブルーベリー、果物等)を積極的に取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入りたい方、誰かと一緒に入りたい方、同性介助等一人一人の希望に添えるよう声をかけている。ゆずを浮かべて四季を感じていただいたりバラを浮かべたり温泉地の入浴剤を使ったり、気持ちよく入浴していただけるような入浴支援を行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあえて決めずに一人一人の生活リズムに合わせて休んでいただいている。晩酌の希望等も取り入れ1日の終わりが心地よい眠りで終われるように支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書は常に最新のものを提示し薬の変更があれば申し送りで容量、用法、副作用について共有している。看護師へもその都度、服薬内容を伝え、情報を共有している。服薬時もマニュアルに沿って行い、飲み残しや飲み忘れがないか、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で必ずその人が中心となれるような場面を作って得意な事を発揮し自信を持って生活できるように支援をしている。コロナウイルス感染防止の為気軽に外出できなくなったが、長年のご友人が訪ねてきてくれたり、散歩や畑仕事に出たり1日の中に少しでも楽しいことがあるように支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが蔓延する前は、毎日買物、外出へ出かけていたがこの1年は紅葉の中をドライブしたり、大好きな焼き芋屋に行くことくらいしか、外出はできなかった。ご家族と出掛ける事も制限がかかってしまい、外出支援が機能しなかったが、状況に応じて散歩へ出て地域とのつながりを感じられるようにした。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て個人でおこづかい程度のお金を所有している方もいる。以前は買物の際は入居者の方から支払いを行っていただき、金銭感覚の維持に努めていた。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日常的に入居者の方に出していただいている。ご家族の声が聴きたくなったらすぐに電話ができるように事前に了解を得ている。月に一回の写真つき通信に入居者から一筆手紙を添えたり年賀状を出したり家族の絆が薄れないよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が書いてくれた季語や日めくりカレンダーを置き日付の感覚を持ってもらえるようにしている。廊下には季節の生花を入居者の方に活かしていただき、季節感も感じていただけるようにしている。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き仲の良い入居者同士が楽しく会話ができるようにしたり、そっと一人になれる場所を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋で座って過ごしたい方は畳を敷いたりカーペットを敷いて居心地良く過ごせるようにしている。家族やご友人も一緒にくつろげる空間となるようにソファーや椅子を置きご自宅のように人を招いて団らんできるような空間作りを行っている。またお部屋にはカギをつけ、安心してくつろげるようにしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カギの使い方がわかるよう矢印で説明したりトイレや自室に一人で戻れるように張り紙をしている。わからなくなっても他入居者が教えてくれたり助け合っている場面が見られている。		